

患者さんの気持ち、感覚……全て「つもり」だけど。



今日は、専門職連携を実践した3年生2名と看護学生3名にお話を伺いました。

学部横断の合同授業はいかがでしたか？

元田) すごく良かったと思います。去年の「患者講演会」では、薬学の方や福祉総合の方とグループワークを行ったことがありましたが、今回は2コマ(90分授業×2回)連続で、とても充実したコミュニケーションが図れました！

安井) ホント、今回は休み時間とかにも話が盛り上がって……仲良くなれました！

神保) 薬学部って、大学内ではあまり他学部との交流が少ないから、数年前からこういった学部横断授業が始まって、すごくいいと思います！

西平) 僕はけっこう緊張していました……。授業で、「高齢者疑似体験」をするってことは聞いていたんだけど……、薬学生を相手に看護学的視点でしっかりした提案ができるかなあ……って。実際は、あまり専門的視点というよりは、倫理観や道徳観についての授業だったんだけど……

安井) うん、そうだったね(笑)でも、僕はもう少し、グループワークで頑張れたかな？って後悔しているんだ。僕たちは「老年看護学」って授業を受けたでしょ。だから、何か「教科書的な回答に捉われてた」なって……。もっと純粋に自分の感性や信念に基づいて発言すればよかったのかなって……(笑)

元田) うん。私も実はそんな気がしていたの。安井君もそう思ってたんだって、ちょっと安心した(笑)でも、薬学の方ってグループで話し合いの時のファシリテートとかすごく上手でびっくりしちゃった。柴田さんと同じグループだったんだけど、リーダーシップがすごくて……

柴田) そんなことないよ……まァ1年学年が上だからね(笑)。でもホント、看護学生と一緒に授業に取組めたってことは、僕自身の中でこれまでイメージできなかった考え方や発想を知り得ることができて、少しは視野広がったのかなって……。ホント有意義な授業だったよ。

「高齢者」に関する授業でしたが……？

神保) 今回の授業は、「高齢者疑似体験」を通じて高齢者に対する支援やサービスを考えるってテーマだったけど、ホント切実だけど難しいテーマだね。

柴田) 確かに。これって高齢者と支援者の2人だけの関係に留まる話じゃなくて、もっと社会全体が受け入れなければいけない問題なんだよね。社会制度とか環境構造とか……。電車の優先席なんかは、その一つなんだろうね。

西平) とところで、優先席ってみんなは座るの？

元田) 私は空いていれば座るけど、高齢の方とか妊婦さんとかが近くにいたら、席を譲るようにしてる。

柴田) 僕も一緒かな。

神保) 私は座らないようにしている。

安井) 僕も座らない……。実は高校生の時バスに乗って、高齢の方に席を譲ろうとしたら……「高齢者扱いするな！」って怒られて……。支援とかサービスって必要な方に提供するってことは重要なんだけど、与える側と受ける側のギャップというか、考え方の違いって、ホント難しいなあって思った最初の経験だったんだ……。

神保) いい経験しているね。でもホント、そう考えると難しいことだらけだね。明らかに転倒の危険を避けるために座った方がいい人もいれば、もしかしたらADLを維持するためにも、少しでも立位での生活を維持してもらうことが大事っていう考え方もあるしね。

元田) でも、ボランティア的って言ったらの確かどうかわかんないけど、自分が「席を譲った方がいい！」って判断して、それを行動に移せたんだって、それが全てでいいんじゃないのかな？相手がどうい風にも感じて……、相手の考えも理解できて、相手の気持ちを尊重できれば一番いいのかもしれないけど、日常生活をしていけば、そんな場面ばかりでもないからな。

将来はどんな職種を考えているんですか？

西平) 僕は病院です。看護師として患者さんの力になりたいなって。身内に看護師がいるんですけど、その「背中」に憧れてって言うのか……。患者さんを精神的にも支援できる看護師になりたいなって。

元田) 実は私は……。高校の時はいろんな分野に興味があって、将来に対する確固たるビジョンってまだ見えていないのかもしれない。でも去年、インターンシップで小児科や精神科の医療の現場を覗いてみて、将来はこういうところで働きたいなって思ったから、今はそういう方面を目指したいなって。でも正直、看護師はどこまで患者さんを救うことができるの？って思っているところもあるの。西平君が言うように、患者さんの精神的負担を軽減できる看護師ってステキだけど、医療(治療)の本質を考えたら、やっぱり医師や薬剤師と一緒にって患者さんと向き合えないと……。

神保) 看護のみんなは具体的な将来のイメージがあるんだね。私は、もちろん薬剤師として働くイメージはあるんだけど、今は大学院進学もいいかなって。もっとしっかり勉強したいなって。

柴田) 神保さん、大学院を考えてるんだ。薬学の大学院は4年あるから、あと6年以上も勉強漬けてこと？(笑)すごいね！

神保) せっかくみんな、医療系の学部で勉強してるんだから、将来のためにももっとコミュニケーションが図れるといいよね！

「コミュニケーション」と「チーム」

安井) これまであんまり学部間で交流ってなかったけど、もっとコミュニケーションが図れるとホントいいよね！

西平) 折角こうして膝を詰めて話ができるんだから。医療とか畏まったことだけではなく、もっと日常の関心とか、広く交流できるともっといろんな価値観を知ることができそう！

元田) コミュニケーションって、いろんなところで使われているけど、結局はお互いがよりよく生きていくための手段なんだから、もっと気軽に交流できたらいいな。

神保) うん。コミュニケーションが円滑になれば、「チーム(仲間)」の結束も強固になるし、もっとチームがパワーアップするよね！でも、時には言いにくいことも仲間にとってあげなきゃいけないんだよ。相手を傷つけないようにも……。

柴田) でもそういう意味では、看護師さんって患者さんに対して、言いにくいことを一番言ってる役回りって感じがするなあ……。やっぱりみんな自分が可愛いから、あんまり波風立てる発言ってしたくないのに……。

元田) でも、言いにくいことが言える関係ってステキですよ。本当の信頼関係ができていないと、なかなか言えないからね……。

神保) そういふ仲間をこれからもう一人でも増やしていきたいよね。絶対、毎日が楽しいもん！

西平) ホント、今回は合同授業をきっかけにいろいろと考えるきっかけになってホントよかったです！

安井) 学生のときから、いろんな分野の人たちを意見交流できるって、いいよね！自然にコミュニケーション力が身につくし、いろいろな仲間が増えていくから。

柴田) じゃあ、これからはみんな「チーム」だね(笑)授業に捉われず、いろんな視点の意見を聞かせてよね！また違う機会が集まればいいね！



神保 江里(薬)
八千代松陰高校出身
(千葉県)

柴田 亘(薬)
松風聖高校出身
(青森県)

西平 浩人(看護)
首里東高校出身
(沖縄県)

元田 千夏(看護)
東葉高校出身
(千葉県)

安井 大地(看護)
日本大学山形高校出身
(山形県)



城西国際大学の6年制薬学教育



「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

多職種連携教育 患者講演会 JIU 地域福祉・医療研究センター主催 「病いを乗り越えるために必要な力とは？」



JIU 地域福祉・医療研究センター主催で患者講演会が開催されました。福祉総合学部・看護学部・薬学部の学生と一緒に患者さんの「がん闘病記」についてお話を伺い、引き続き多学部学生が、「患者理解」、「保健医療福祉職（多職種）理解」、「自分の気づき」についてグループワークを行い、それぞれのグループが成果を発表しました。

写真上段左：林 鉄二 講師
写真上段右：長山忠雄 地域福祉・医療研究センター長
写真下段：多職種連携教育に参加する学生たち



多職種連携教育 高齢者疑似体験 「体験して、はじめて感じたこと」



3年次の高齢者医療サービス論では、「高齢者疑似体験」を実践します。本年度は看護学部2年生との合同授業を実施し、福祉総合学部の3年生が授業サポートを行ってくれました。在宅医療をはじめ、高齢者へのケアサービスの充実が要求されています。この授業では、「体験」することでの他者理解の促進と共に、多職種（看護一薬一福祉）連携の重要性への気づきを促しています。グループワークでは、各グループとも活発な討議がなされており、今後も多職種連携教育を推進していきます。



千葉三大学GP 大学間連携共同教育推進事業 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム



医薬品適正使用啓発活動の一環として、千葉大、千葉科学大の学生と共に、東京都江東区の小学校で児童参加型の授業を行いました。他大学の教員や学生と交流を持てたことはとても刺激的でした。授業を受けた小学生児童たちが「面白かった！」と言ってくれたことはとても胸に響き、将来薬剤師になったら「子どもたち」を笑顔にする薬剤師になりたいなって思いました。

左：丸 諒子 千葉南高校出身（千葉県）
右：渡部 里奈 日本大学豊山女子高校出身（東京都）
中央：小嶋 教授 薬物治療・医薬品情報学研究室

2014年度
入学生 募集

大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

<http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>

薬学部 医療薬学科（6年制）

<http://jiu.ac.jp/pharmacy/>

城西国際大学 入試・広報センター

TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp